

マージン（年間）算出断面の統一について

（系統容量の3%に相当する電力を確保する場合）

電力広域的運営推進機関
平成28年2月1日

- マージンの値については、原則、各供給区域の系統容量の3%に相当する電力又は最大電源相当量が故障等により失われた場合にも電力系統を安定に維持できる電力としている。
- 系統容量の3%に相当する電力を確保する場合等は、需要に応じたマージン確保量となるが、**一般電気事業者毎にマージン（年間）の算出に用いる需要の断面が統一されていないのが実態である。**
- **次年度以降のマージン算出（年間）に向け、マージン算出断面の統一を図る。**

2. マージン（年間）算出断面の現状①

	断面数 (断面/月)	算出に用いる需要
北海道※	4	月毎（平日/休日、昼間/夜間）の需要 ※北本（両方向）は周波数制御に対応したマージン、その他のマージン
東北	4	月毎（平日/休日、昼間/夜間）の需要
東京	1	季節別（4～5月、6～9月、10～11月、12～3月）の需要
中部	1	月毎の需要
関西	1	月毎の需要
中国	2	月毎（平日/休日）の需要

【参 考】

	断面数 (断面/月)	備 考
計画潮流・空容量（年間）	4	月毎（平日/休日、昼間/夜間）
供給区域の需給に関する年間計画	1	各月の最大時需要電力

3. マージン（年間）算出断面（現状イメージ）② 4

【北海道※・東北】

※ 北本（両方向）は周波数制御に対応したマージン、
その他のマージン

	平日		休日	
	昼間	夜間	昼間	夜間
4月				
5月				
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
3月				

【東京】

	平日		休日	
	昼間	夜間	昼間	夜間
4～5月				
6～9月				
10～11月				
12～3月				

【中部・関西】

	平日		休日	
	昼間	夜間	昼間	夜間
4月				
5月				
⋮			⋮	
3月				

【中国】

	平日		休日	
	昼間	夜間	昼間	夜間
4月				
5月				
⋮		⋮		⋮
3月				

今後、連系線等利用ルールが改定され、連系線利用計画（年間計画）の提出内容は以下の通り変更される。 ⇒ 断面が細分化される

現行（ルール変更前）	今後（ルール変更後）
各月平休日別の昼間帯、夜間帯の最大値	日別（または各月平休日別）の昼間帯、夜間帯の最大値



連系線利用計画の断面細分化に伴い、運用面も考慮した上で年間段階からマージン算出断面をある一定レベルまで細分化していくことは有効。



以下、各月平休日昼間帯・夜間帯別、各月平休日別及び各月の最大需要により算出する場合を比較検討

3. マージン（年間）算出断面統一の方向性②

《比較検討表》

	項目	各月平休日 風間帯・夜間帯別 (最大需要電力)	各月平休日別 (最大需要電力)	各月 (最大需要電力)	備考
運用面	需要想定	×	× (○)	○	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 現状、一般電気事業者による供給区域の需給に関する計画（年間）については、各月最大需要及び供給力が提出されている。 ✓ H29年度・30年度分の供給区域の需給に関する計画（年間）からは、一般送配電事業者による供給区域の需要及び供給力に関する年間計画が、平休日別の最大値・最小値となる予定
	月間マージン	×※	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 第2段階以降、一般送配電事業者による供給区域の需要及び供給力に関する計画（月間）は平休日別の最大値及び最小値が提出される。 ✓ 夜間帯における供給力（予備力）の想定が困難 ⇒ ※ 月間段階での予備力見合いでのマージン減少が困難
連系線 利用面	混雑処理	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 月間マージンは、「予備力見合いでマージンを減少させる」又は「年間マージン通りとする」ことをルール化したため、年間段階での細分化による月間以降の混雑処理の可能性はないため
	空容量	○	△	×	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 算出断面を細分化する程、マージンが小さくなる断面が増え、空容量が増加
総合評価		×	△ (◎)	○	

() : 今後、平休日別の需要・供給力となった場合の評価



（算出断面統一の方向性）

空容量の観点からは極力、算出断面を細分化することが望ましいものの、マージンの量は想定需要や予備力との関連性が高く、エリアの需給計画の検討断面と整合を図ることが必要との観点から、

- ✓ H28年度・29年度分については、**各月の最大需要**による算出とする。
- ✓ 来年度（H29年度・30年度算出分）からは、**各月平休日別の最大需要**による算出とする。

4. マージン（年間）算出に用いる需要

H28年度・29年度分のマージン（年間）算出に用いる需要は以下のとおりとする。

【基本的な考え方】

- ◆ マージンはシステムを安定に維持するために確保する観点から、求める単位（月別）での最大需要を使用する。
- ◆ 「エリアとして想定した需要」に基づきマージンを算出する。



上記考え方にに基づき、年間需給計画における需要を用いることを基本とする。但し、第2年度の各月需要想定がまだ算出されていない場合は、想定方法のひとつとして以下を参考にする。

- ✓ 第2年度の8月最大需要は、最新の供給計画の値とする。
- ✓ 第2年度のその他の月については、第1年度の各月最大需要の比率を用いて、第2年度8月の最大需要より算出する。